

令和元年度 下関商業高等学校（定時制） 学校評価書 校長（ 藤 本 茂 ）

1 学校教育目標
教育目標・・・①社会人基礎力の育成 ②授業の充実による確かな学力の育成と進路指導の充実 ③部活動、学校行事等の充実 ④保護者・地域との連携と積極的な情報発信 ⑤安心・安全で快適な教育環境の整備 めざす学校像・・・①ビジネスの基礎力を充実させ、ビジネスへの理解力と実践力を備えた生徒 ②明朗で、人間としての常識とゆたかな人間性及びたくましい体力を備えた生徒 ③常に感謝の気持ちを忘れず、他人を思いやり、誠実で謙虚な生徒 ④変化の激しい時代に自ら主体的・積極的に対応でき、創造性を備えた生徒 ⑤日本の伝統文化を尊重し、グローバルな視野をもった生徒 チャレンジ目標・・・①出席率95%以上 ②進路決定率100%・正規雇用就職率100%、3年間は離職しない進路意識の涵養 ③全商検定3級以上全員取得

2 現状分析（前年度の評価と課題を踏まえて）
① 素直で落ち着いた態度で学校生活を送っているが、社会的マナー等に関して継続的な指導が必要である。 ② 積極的な情報発信による、家庭と連携した進路指導、学習指導、健康指導の充実が求められる。 ③ 授業にはまじめに取り組むが、基礎学力の定着には時間を要する。学習意欲のさらなる向上と家庭における学習習慣の確立が求められる。 ④ 将来の進路について見通しが立っていない生徒が多いため、自らの進路について、より主体的に考える姿勢を育む必要がある。

3 本年度重点を置いてめざす成果・特色、取り組むべき課題
① 卒業までを見通したキャリア教育の推進 ② 保護者・地域との連携強化と積極的な情報発信 ③ 社会人基礎力の定着と資格取得の奨励 ④ 生徒一人ひとりに寄り添った教育相談体制の充実

4 自己評価					5 学校関係者評価		
評価領域	重点目標	具体的方策（教育活動）	評価基準	達成度	重点目標の達成状況の診断・分析	学校関係者からの意見・要望等	評価
学習指導	わかる喜び・成長の実感を味わえる授業の実践	・朝学(始業前に行う国語・英語についての基礎的問題演習)を週2回実施し、各教科の学習に必要な基礎学力を育む。 ・学習意欲を喚起する授業づくりを工夫し、一段と高い目標を設定し、それを実現するための力を養うために生徒一人ひとりに対しきめ細かな学習指導を行う。	生徒アンケートにおいて、 4:「社会人として必要とされる基礎的な学力がついたと感じている」と回答する生徒が8割以上である。 3:「社会人として必要とされる基礎的な学力がついたと感じている」と回答する生徒が6割以上である。 2:「社会人として必要とされる基礎的な学力がついたと感じている」と回答する生徒が4割以上である。 1:「社会人として必要とされる基礎的な学力がついたと感じている」と回答する生徒が4割未満である。	4	・朝学などを通じて、必要な基礎学力を育む努力をしている。劇的に目に見える効果が上がっているわけではないが、一步一步前進している。 ・学習意欲の高い生徒に対しては、課外等で対応し、検定での成果も出てきている。進路実現の一助になればと思う。 ・生徒のほとんどが昼間働いている学校であるので難しい面もあるが、学校外での家庭学習を充実させることが今後の課題ではないかと考える。	・変化の激しい世の中ではあるが、社会人として必要とされる基礎学力の定着に向け、朝学の取組は、引き続き継続をお願いする。 ・検定については、生徒の自己肯定感の獲得にも繋がると思う。生徒一人ひとりのニーズに対応した取組を今後も進めて欲しい。	A
		確かな職業観・勤労観の育成	・年間3回実施する進路ガイダンスにおいて、目的が明確であり生徒の実態に応じた内容となるよう、講師との事前打合せを綿密に行う。 ・各ガイダンス後に感想プリント等で生徒の振り返りを実施することで生徒の自己理解を深めるとともに、十分な生徒理解にもとづいた進路指導を推進する。	各ガイダンス後の生徒アンケートにおいて、 4:「職業や勤労に関する理解が深まった」と回答する生徒が8割以上である。 3:「職業や勤労に関する理解が深まった」と回答する生徒が5割以上である。 2:「職業や勤労に関する理解が深まった」と回答する生徒が3割以上である。 1:「職業や勤労に関する理解が深まった」と回答する生徒が3割未満である。	4		
進路決定率100%	・生徒の適性と希望に応じた、進路に関する情報提供を的確に行う。 ・就職サポーターとの連携を十分図りながら、キャリアカウンセリングを行う。	4:進路決定率100%であった。 3:進路決定率80%以上であった。 2:進路決定率60%以上であった。 1:進路決定率60%未満であった。	4	・生徒の進路希望調査等に基づき、ハローワーク学卒担当者ととの緻密な情報交換を行った結果、生徒の希望する進路選択決定となった。 ・卒業生2名の進路について、保護者との協議、就職サポーターとの連携も図りながら、それぞれの希望や状況に応じた見通しのある進路決定となった。 ・2、3年生に対して自立した社会人になるための基盤づくりを促したことで、進路意識を高めることにつながった。	・生徒は、各進路ガイダンスは勿論、日頃のアルバイト等での経験をとおり、少しずつ職業観や勤労観を育てていると思う。今後も、卒業後のなりたい自分像をより明確に描けるよう生徒を支援して欲しい。	A	
生徒指導	規範意識の向上	・「凡事徹底」重点4項目(①挨拶②時間厳守③整理整頓④授業態度)の徹底を図る。	4:生徒は4項目すべて実践できていた。 3:生徒は3項目が実践できていた。 2:生徒は2項目が実践できていた。 1:生徒は1項目しか実践できなかった。	3	・生徒それぞれの性格にもよるが、挨拶がしっかりできない生徒もいる。 ・その他については概ね実践できていると思われる。引き続きより良い規範意識の向上に向けて指導を重ねていきたい。		・挨拶等に課題が見受けられるが、概ね落ち着いた学校生活を送っているようである。 ・一方で、少人数とはいえ解決の難しい悩みを抱えている生徒もいるようである。定時制ならではの温かく粘り強い支援で、生徒の力になって欲しい。
	教育相談の充実による学校不適応の未然防止	・「FIT」等を分析した上で個人面談を実施し、学校不適応の未然防止に努める。	生徒アンケートにおいて、 4:「学校は、生徒の悩みに対し親身になって相談に応じている」に肯定的な回答をする生徒が8割以上である。 3:「学校は、生徒の悩みに対し親身になって相談に応じている」に肯定的な回答をする生徒が6割以上である。 2:「学校は、生徒の悩みに対し親身になって相談に応じている」に肯定的な回答をする生徒が4割以上である。 1:「学校は、生徒の悩みに対し親身になって相談に応じている」に肯定的な回答をする生徒が4割未満である。	4	・生徒はそれぞれに悩みを持って生活している。生徒アンケートの結果にもあるように、教員は生徒の悩みを解決する為に、親身に納得相談に応じているが、解決に至らないことも多い。スクールカウンセラーや家庭との連携も図りながら、解決に向けて、今後も変わらぬ支援を続けたい。		
保健体育	規則正しい生活リズムの確立	・授業や全体指導の場を通じて、生活規律の確立の重要性を理解させるとともに、養護教諭との連携を図り、気になる生徒への健康相談を適宜実施する。	生徒アンケートにおいて、 4:「年間通じて規則正しく生活できた」と回答する生徒が8割以上である。 3:「年間通じて規則正しく生活できた」と回答する生徒が6割以上である。 2:「年間通じて規則正しく生活できた」と回答する生徒が4割以上である。 1:「年間通じて規則正しく生活できた」と回答する生徒が4割未満である。	4	・週末も含めて午前中からアルバイトや仕事をしている生徒が多い中、「規則正しく生活出来た」と回答した生徒が、昨年の6割以上から8割以上になるなどの改善が見られた。 ・一方で、夜遅くまで携帯電話を使用することによる昼夜逆転してしまう生徒や、アルバイトで疲れ一時的に欠席が続いてしまう生徒もいる。関係教員が連携を図りながら、改善に向けて働きかけを継続していく。	・生活リズムの改善は、成長期の高校生にとっても大きな意義を有する。今後もよりよい生活習慣の確立をめざした指導の充実を望む。 ・学業とアルバイトの両立が難しい生徒もいるようであるが、まずは学業が優先であると認めて、必要があれば、アルバイト先とも連携した生徒支援をお願いしたい。	A
	学校の組織等	・生徒募集停止及び教員定数減を見込んだ学校行事や校務分掌等の改善の必要性について、教職員の意識を高めると共に、具体的な修正・改善を図る。	4:十分な取組ができた。 3:概ね取組ができた。 2:低調な取組であった。 1:全く取組ができなかった。	3	・校務分掌については、昨年度までの4分掌を3分掌に見直し新しいスタートを切った。各分掌毎の業務内容の幅が広がったが概ね臨機応変に対応できた。 ・今後はさらに教員定数減が見込まれるため、各分掌の課題を全教員で共通理解し改善に向けて取り組む必要があると思われる。		
業務改善	日常的な業務		4:すべての行事で早めの企画立案がなされ、振り返りも行われた。 3:ほとんどの行事で早めの企画立案がなされ、振り返りも行われた。 2:早めに企画立案がなされ、振り返りが行われた行事はあまりなかった。 1:早めに企画立案がなされ、振り返りが行われた取組はまったくなかった。	3	・これまでの反省を活かし、生徒会主催の行事では早めに取りかかることができたので、途中で適宜見直しや修正を行い充実した内容となった。 ・学校行事が減りつつある中、生徒の意見も取り入れながら内容の充実を図ることが今後の課題と捉えている。	・次年度はさらに教員が減るそうだが、最低でもこれまで通りの生徒への支援をお願いする。 ・今年度は学校行事が減ったそうであるが、生徒の中には新たな行事を希望する声もあると伺った。生徒数は減っても充実した学校生活を確保するための改善、充実を期待する。 ・安心、安全な学校運営には先生方の健康が第一である。夜間の勤務でもあるので、生活リズムの確立など、健康管理には十分配慮をお願いする。	B
	学校行事等の早めの企画・立案と実施後の振り返りの実施	・学校行事等を時間的な余裕をもって早めに企画立案するとともに、実施後の振り返りを行い、より教育効果が上がるよう改善点を見出す。	4:時間外勤務の平均が月10時間未満であった。 3:時間外勤務の平均が月20時間未満であった。 2:時間外勤務の平均が月30時間未満であった。 1:時間外勤務の平均が月30時間以上であった。	4	・時間外勤務のほとんどは業務開始前のものであり、勤務終了後の残業はほぼゼロである。長期休業中の時差出勤についてもほとんどの教員が取得している。引き続き、年休取得の奨励等も促しながら、教員の健康管理への配慮を行う。		
教職員の健康管理への十分な配慮	勤務状況	・年休取得の示唆・奨励や定時出勤・帰宅を積極的に促し、時間外勤務を減らす。	4:時間外勤務の平均が月10時間未満であった。 3:時間外勤務の平均が月20時間未満であった。 2:時間外勤務の平均が月30時間未満であった。 1:時間外勤務の平均が月30時間以上であった。	4			

6 学校評価総括（取組の成果と課題）
【学習指導】学習意欲の高い生徒は多い。着実に力をつけさせ社会人基礎力の深化を図っていく必要がある。 【進路指導】募集停止に伴う生徒減において、各学期の外部講師招聘によるキャリア教育では進路意識の高揚を図ることができ、事後のアンケート集約等により生徒理解を一層深めることができた。キャリア教育では毎回のように欠席しがちな生徒を積極的に参加できるように指導していくことが重要課題である。 【生徒指導】生徒は全体的に落ち着いた。教員とのコミュニケーションもよく取れているが、心の悩みを解決することは難しい。 【保健体育】生活リズムについては改善傾向にあるが、家庭環境やアルバイト就労状況も含めて、引き続き生徒一人ひとりの状況を把握しながらきめ細かな支援をしていく必要がある。

7 次年度への改善策
【学習指導】コミュニケーション能力・自分で発信する能力・読解力を養うような学習を工夫していきたい。 【進路指導】募集停止に伴う生徒減において、キャリア教育の再構築を図るとともに年2回（4月・9月）実施の進路希望調査をもとに生徒への情報提供をこまめに行い、更なる進路意識の高揚に向けた取り組みが必要である。 【生徒指導】スクールカウンセラーともさらに連携を図りながら、生徒との面談機会を増やすなどして心の悩みを解決する手助けになるよう努力したい。 【保健体育】自身の健康管理という点で、定期健康診断結果に基づく治療勧奨を、今後より積極的に取り組みながら、生徒が生涯にわたり自らの健康を適切に管理し改善していく資質や能力の育成を行ってきたい。